

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	吉田 直子
学位の種類	博士 (学術)
学位記番号	都市博甲第2486号
学位授与年月日	2024年3月25日
学位授与の根拠	学位規則 (昭和28年4月1日 文部省令第9号) 第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻
学位論文題目	丘陵郊外住宅地における高齢者の健康と環境との関係に関する研究 ―戸建て住宅地に居住する高齢者のフレイルに着目して―
論文審査委員	主査 横浜国立大学 教授 大原 一興 横浜国立大学 教授 高見沢 実 横浜国立大学 教授 大野 敏 横浜国立大学 教授 田中 稲子 横浜国立大学 准教授 藤岡 泰寛

論文及び審査結果の要旨

吉田直子氏の論文は、人口の高齢化が進む我が国において、介護予防など健康増進行動のはたす役割がますます重要となっている現代において、高齢者の虚弱段階（フレイル）の進行においては、日常的な生活行動が身体状況の悪化を防ぐ可能性をもつことに注目したものである。とりわけ大都市周辺部の郊外高台丘陵地において、高齢者の身体状況と居住地の物理的環境条件との関係を考察するものである。

論文構成は、第1章序論と第5章結論の間に主論として3つの章を含んでいる。

第1章は研究の背景と目的について述べている。近年の保健分野及び建築・都市計画分野における研究レビューから、物理的環境と高齢者の行動や身体状況との関係についての研究に関心が高まっている傾向がある中で、未だにその関係について論じたものは少ないことが示されている。

第2章は、高齢者1900名ほどの調査データより、フレイルの状況を示す基本チェックリストの得点を指標とし、段差のつらさや転倒や外出、近所付き合いなどの意識や行動と住宅地の環境条件との関係について分析をおこなっている。

第3章では、行動と環境特性との関連について、バス停の位置の外出行動への影響、この地域に特徴的な屋外階段の段数とフレイルや外出行動との関係などについて分析を加えた結果、適度な段数を日常的に上り下りしている高齢者は、身体状況の低下を抑制できている可能性のあることなど、新たな知見が得られている。

第4章では、2020年と2023年に実施した2時点の横断調査と、その中で個人が特定でき追跡可能であった217名の調査対象者の3年間の変化を捉えて、身体状況の悪化・維持・改善のそれぞれのグループの違いを捉え、積極的な健康行動よりも日常的な階段昇降経験などにより維持される状況が明らかになった。

第5章は結論で、各章の結果のまとめであり、屋外階段の段数や、住環境意識、外出のための環境などと実際の身体状況との関連が複数指摘されている。購買施設や交流の場など施設空間の提案も含めて最終的なまとめと今後の展望を述べている。

以上のように、吉田直子氏の論文は、典型的な郊外住宅地において、これからの高齢者のための環境整備の重要なひとつの方向性を示唆するものとして注目され、従来の公衆衛生学・保健学と居住環境との知見の統合による画期的な考察がなされていることなどから貴重な研究であり、博士（学術）の学位請求論文として十分な内容を持つと認める。

なお、iThenticateによるチェックを行ったが、著者の既発表論文以外の重複はほとんど無く、論文剽窃等の問題は認められなかった。

(試験の結果の要旨)

・令和6年2月7日(水)午後4時15分より約1時間、建築学棟1階大会議室において、審査委員全員出席の下に、吉田直子氏の学位論文発表会を公聴会として開催し、学位論文についての口頭発表45分および質疑応答20分がおこなわれた。同午後5時20分より審査員のみで同会議室において審査委員会を開催し慎重審議の結果、本論文の内容は博士(学術)の学位論文として十分な内容を有していることを審査委員全員一致で確認し合格と判定した。質疑応答の内容から、関連分野の専門的知見や分析能力などを確認し、学位論文に関連する建築学と保健学、老年学の分野を中心として、住宅、住環境、身体能力、健康や社会生活などに関する総合的な視点からの居住環境老年学の学術分野において博士(学術)の学位を得るにふさわしい学力を有すると判定した。修了に必要な単位はすでに取得済みである。

・外国語の能力に関しては、本論文の要旨および査読論文において英文概要を執筆していることから、英語能力に関する学力は十分であることを認めた。

・この論文の内容の一部を以下の通り、査読付き論文2編(うち1編は年度内掲載決定)他として発表しており、1編以上の査読論文の学位取得条件を満たしている。

1) 吉田直子, 大原一興, 李鎔根, 藤岡泰寛, 丘陵郊外住宅地における高齢者の健康と建築環境に関する研究: フレイルと外出行動、屋外階段からの検討, 日本建築学会計画系論文集大88巻 第814号, 3215-3224, 2023年12月掲載(査読あり)

2) 吉田直子, 大原一興, 李鎔根, 藤岡泰寛, 郊外戸建住宅団地における建築環境と健康に関する研究: COVID-19パンデミック期3年間の経験とレジリエンス, 住宅総合研究所研究論文週・実践研究報告集, No. 50, 2023年版, 2024年3月掲載予定(査読あり)

3) 吉田直子, 斜面地域在住高齢者の建造環境と外出に関する文献レビュー, 日本地域看護学会第22回学術集会講演集, p. 175, 2019.8(査読無し)

・以上により、吉田直子氏の最終試験は合格であると判定した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。